レッスン：SPA/04

テーマ：個人的ピラミッド/ピラミッド/部屋

SPA4.DOC/PYR5.KE5/SE/KE5

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たち。私たちは常に神、絶対、聖性に抱かれています。

前回のレッスンでは現在のパーソナリティーである人間について述べ、人間は無知のなかで生きていると述べました。そして無知のなかで生きている人間はまた、様々な意識の段階を表現している、と話しました。

様々な意識の段階と言いましたが、それは実際どういうことでしょうか？意識の様々な段階は、セルフ・エピグノシスの現れの様々な段階を示します。事実、意識であるセルフ・エピグノシスのある特定のレベルとして現れているものは、その現在のパーソナリティーがどの程度無知のなかに埋もれているか、つまり生の特質の真の現れをどの程度制限しているか、を示しています。

前に話したように、セルフ・エピグノシスはひとつですが、意識が制限のなかに入った結果として、セルフ・エピグノシスは様々なレベルで表現されています。結果的に、意識であるセルフ・エピグノシスは次のように表現されています：本能的意識としてのセルフ・エピグノシス、潜在意識としてのセルフ・エピグノシス、意識している意識としてのセルフ・エピグノシス、超意識の意識としてのセルフ・エピグノシス。これらは意識の現われの様々な段階であり、同時にセルフ・エピグノシスの現れの様々な段階です。

セルフ・エピグノシスは、ロゴスの現れに個別性を獲得する能力を与えている質です。あるいは、「獲得する」ではなく個別性を「表現する」能力と言ったほうがよいでしょう。なぜなら、実際、個別性は未表現のステート、つまり状態として私たちの中にあるのですから。

意識が限界、制限のなかに取り込まれた結果として、無知のなかに生きてい人間がいます。それはどういう意味でしょうか？意識とは一体何でしょうか？私たちは意識をどのように理解しているでしょうか？意識と生のスパークの間に違いがあるでしょうか？

存在の諸世界における生の現れを、私たちはどのように定義しているでしょうか？私たちは人間として、ロゴス的現れ、つまり「魂のセルフ・エピグノシ」です。魂のセルフ・エピグノシスとは何でしょうか？

それは存在の諸世界における生それ自体の現れです。生には意識があるのでしょうか？生は意識であり、意識は生です。もし私たちが意識、つまり生の現れを取り込むと、何があるのでしょうか？もちろん、それが現在のパーソナリティーに生じていることです。それはもはや生を表現しているのではなくて、生の現象を表現しています；現在のパーソナリティーは生それ自体の影であり、生の特質をまったく表現していません。現在のパーソナリティーはアイコンに過ぎず、生それ自体の似姿ではありません。

以前のレッスンで述べたように、生の現象としての人間は、いわゆる四面ピラミッドの下にある墓にいます。無知のなかにいる人間は死んでおり、地面にフォーカスしており、地に囲まれており、さらに泥のなかで見る自分自身のイメージに魅惑されています。人間は自分自身（＊イメージではなく）を見るときには、きれいな鏡のなかを見ています。(泥のなかの)人間は自分の欠点を理解せず、それをまったく認識しません。そうです、いわゆる本能的意識としてのセルフ・エピグノシス、潜在意識としてのセルフ・エピグノシスを表現している間は、人間は墓のなかにいるのです。

Page 2

いわゆる意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現し始め、意識的に生き始めるようになるとき初めて、人間は墓から上昇するようになります。それまでは墓のなかにいます。最愛のお方(the Beloved One、イエス・キリスト)は「死人が自分の頭を埋めるにまかせておきなさい」と言いました。これは、無知のなかにいる人間は死んでいることを意味します。

真理の探究者が墓から自分自身を上昇させるとき、彼あるいは彼女はどこに自分自身を見出すのでしょうか？前のレッスンで述べたように、探求者は自分自身をピラミッドのなかに見出し、真のワークはこのピラミッドの中でスタートします；それは私たちが以前に述べたピラミッドであり、そのサイズと比率はそれが建てられる海抜の高さによります。

しかし、真理の探究者が自分自身をこのピラミッドの中に見出す前に、四面ピラミッドの下の墓のなかで非常にハードなワークをする必要があります。墓のなかで、探求者は自分が立っている墓と同一の小さな部屋、および小さな同一の四面ピラミッドを築く必要があります。小さな部屋はサイズ、床、天井が同一の四つの垂直の壁からできています。部屋あるいは墓の床にはまったく集中すべきではありません。

この小さな部屋の大きさはどのぐらいでしょうか？部屋の真ん中に立って両腕をどの方向にでも伸ばすと、指先から約50センチのところに壁および天井があります。

同時に、自分の小さな四面ピラミッドを築きます。ピラミッドのサイズはその人の大きさによって異なり、誰もが同じというわけではありません。ここでも同様に、もし両腕をどの方向にでも伸ばしたとき、指先からピラミッドの各サイドへの距離は約50センチです。

なぜ、このようなワークすべてが必要なのでしょうか？なぜ四面ピラミッドなのでしょうか？四面ピラミッドがいかにして現在のパーソナリティーと関係しているのでしょうか？四面ピラミッドは四つのエレメントを現し、また現在のパーソナリティーを現しているので、大いに関係があるのです。以前述べたように、ピラミッドの三つの面は三つのエレメントを示し、ピラミッドの底部は四つ目のエレメントを示しています。一つの面は火のエレメントを管轄するミカエルに、もう一つの面は空気（エーテル）を支配するラファエルに、三つ目の面は水のエレメントを支配するガブリエルに、そしてピラミッドの底部は地のエレメントを支配するサミュエルに属します。サミュエルはアークエンジェルではなく、ルシファーのエレメンタルです。原因・結果の法則を支配するアークエンジェルのオーダー、ルシファーのエレメンタルです。

ピラミッドの四番目の面は何でしょうか？ピラミッドの四番目の面は、現在のパーソナリティーに属します。それは鏡、将来、現在のパーソナリティーが自分の弱点、欠点をすべてはっきりと見ることのできる鏡です。しかし、それはまた他の三つのワークを調整するアークエンジェルのオーダー、ウリエルのサイドでもあります。

エレメンタルであるサミュエルについてはどうでしょうか？実際、これらのエレメンタルは何をしているのでしょうか？もし私たちが地にフォーカスすると、もし地上的なものに魅惑されると、自分自身をこれらのエレメンタルに同調させることになります。これが、私たちが墓のなかにいる間、地面にフォーカスしているときに生じていることです。私たちはこれらのエレメンタルに同調しているのです。それゆえに私たちは五つの超感覚の代わりに、五感を使っているのです。実際には、実存の諸世界においても人間は五つの超感覚を使って自分自身を表現すべきなのです。しかし、地面にフォーカスしているために、サミュエルにフォーカスしているがゆえに、五つの超感覚の代わりに五感を使っているのです。これは上向きの代わりに、下向きになっている五芒星によって象徴されています。五芒星は無知のなかで五感を使っている人間を示しています。

そうなのです、小さな部屋のなかで私たちは逆向きの五芒星を正しい向きに変えようとしているのです。それによって現在のパーソナリティーが四面ピラミッドのなかに入れるようにです。真のワークはこれら二つの場所でスタートします。四つの壁のある小さな部屋のなか、そして小さな四面ピラミッドのなかです。この小さなピラミッドは、大きなピラミッドのように海抜の高さによってサイズが変わることはありません。大きなピラミッドは前に述べたように、そのサイズはその場所の標高によって異なります。

Page 3

エジプトの複数のピラミッドを比較してみると、同じ地域、同じ標高のところに様々なサイズのピラミッドがあることがわかります。その地域の標高では、すべてのピラミッドは同じ大きさであるべきなのです。あいにく、当時の人間がこのリアリティーについて知らなかったのです。

しかし、いずれにしても、今のところ、私たちが造る小さなピラミッドにフォーカスしましょう。この小さなピラミッド、および小さな部屋の中で私たちは過去に与えられたワークを行い、また真理の探究者に与えられる新しいワークを行います。エンドスコピシスのすべての瞑想は皆、これら二つの場所で行います。エンドスコピシス（＊自己分析、自己洞察）とは、内側に貯蔵されていて、それによって私たちが間違ったことをするもの、および内側にある結果としてそれが表現されるものを見出す努力です。ですから、もし私たちの仕事がより良いセルフ（自分）を表現し、現在のパーソナリティーをマスターし、「生それ自体」の特質を現すことであるなら、エンドスコピシスは真理の探究者にとってもっとも重要なワークなのです。「生それ自体」の特質とはアガピ以外の何ものでもありません。なぜなら、生とはアガピであり、アガピは神だからです。これらすべては私たちの内側にあり、私たちはそれを表現しようと努力する必要があります。そのために行うべきたくさんのワークがあります。

小さな四面ピラミッドの中でワークする一方、同時に他のタイプのピラミッドの中でもワークをするようになるでしょう。五面ピラミッド、六面ピラミッド、三面ピラミッド、さらに円錐形である一面ピラミッドです。しかし、七面ピラミッドは使いません。なぜなら、それは存在の諸世界のためのものであり、現在のパーソナリティーのためのものではないからです。

ですから、四面ピラミッドのなかでワークをスタートすることになります。それは気づきを上昇させ、その結果現在のパーソナリティーは大きなピラミッドの中に自分を見出すレベルにまで到達することでしょう。それが実現すると、現在のパーソナリティーはいわゆる意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現し始めるようになります。それを表現し始めるようになります。というのも、それを完全に表現するためには、現在のパーソナリティーはそのすべての弱点、欠点を認識しなければならないからです。

いつ、どこでそれらすべての弱点が認識されるのでしょうか？現在のパーソナリティーが四面ピラミッドの四番目のサイド、自分の前にある鏡のなかで弱点と直面するようになるときです。今、もしあなたがこの鏡のなかに自分自身を見ようとしても、それは不可能です。前面にたくさんの薄霧がかかっていて、自分のイメージをまったく見ることができないからです。この薄霧を除去する必要がありますが、それには多くのワークが必要です。ですから、繰り返すと、真のワークは小さな四面ピラミッドの中、および部屋の下にある小さな墓の中という二つの場所で行われます。部屋は四面ピラミッドの下にあり、それは地面の中、土で囲まれています。多くの忍耐、多くの努力、多くのワークが必要となり、私たちは自分の前にいつもフォーカスしている必要があります。

私たちは常に主、主の聖性の絶対に抱かれています。

質問

質問：あなたは墓と下向きの五芒星について話してくれました。下向きの五芒星は無知にある人間を意味していますが、墓は何を意味しているのでしょうか？

Ｋ：墓は地面のなかで、無知のなかで生きている私たちの墓です。例えば、もしあなたがエジプトにあるピラミッドを訪れると、様々なレベル（階）に様々な部屋があることがわかるでしょう。無知にある人間はピラミッドの床の下にある、地下の部屋にいます。地上レベルに別の部屋があり、さらに別の部屋がピラミッド内の少し上の方にあります。さらに、それより高いレベルにも別の部屋があります。勿論、これら様々な高さは、ある特定のイニシエーションを示しています。イニシエーションとは実際は何でしょうか？それは自己意識の様々な段階です。

質問：しかし、もし自分が入る小さなピラミッドを築くのなら、なぜ小さな墓をも築く必要があるのですか？

Ｋ：なぜなら、私たちはそこからスタートしなければならないからです。人間は今、そこにいるからです。そうです、

**墓から出るのを助けてもらうために、私たちは自分の無知を理解する必要があるのです。**

Page 4

質問：…それでは一度そこから出たら？

Ｋ：まず、私たちは自分がそこから出ているのをイメージすると同時に、エレメンタルを築きます。それによって、現在のパーソナリティーは何であれ私たちが築くものに助けられて、そこから外に引き出されます。勿論、これは気づきの上昇を助けることになります。なぜなら、これら二つの場所で行われるワークは気づきを高めるために必要なワークであり、それ以外の何物でもないからです。現在のパーソナリティーが気づきの上昇を伴わずにパワーと能力を得ることができるようなワークには、私たちはフォーカスしません。そのようなワークは魔術のテクニックの範疇に入り、私たちはそのような魔術には一切タッチしません。

質問：ピラミッドのサイド（面）の数により、面が多ければ多いほど成長、進化も高くなるのですか？

Ｋ：必ずしもそうではありません。例えば、三面ピラミッドは現在のパーソナリティーの三つの体のマスターを意味し、現在のパーソナリティーはそのとき、素質的可能性のサイクルが現在のパーソナリティーに提供するレベルの「生の特質」を表現しています。それは、私たちが最初の磔（はりつけ）のレベルに到達するときに表現するものを象徴しており、それは意識とセルフ・エピグノシスのバランスです。

質問：ピラミッドの各サイドはそれぞれのアークエンジェルのヒポスタシス（＊状態）を示しているのですか？

Ｋ：そうです、ピラミッドのなかのエクササイズで私たちはそれを行っているのです。私たちは自分自身を三つのアークエンジェルのオーダーに同調させようと努力します。同調が生じると、現在のパーソナリティーが自分自身のアークエンジェル的ヒポスタシスを表現する助けとなります。なぜなら、人間は同時にアークエンジェルでもあるからです。勿論、大部分のアプローチ（＊霊的な派、グループ）はこの事実、つまり人間はアークエンジェルであり、現在のパーソナリティーとして実在しているときですら自分のアークエンジェル的ヒポスタシスを表現できる、ということに気づいていません。アークエンジェルとしてのヒポスタシスの表現は梯子（はしご）、いわゆるヤコブの梯子を上っている間に完全なものとなります。

古代ギリシャ人によれば、この梯子は私たちの面前にエゴの様々な局面を展開するための梯子です。古代ギリシャ人によれば、ヘラクレスの仕事です。私たちは二つの梯子を昇らねばなりません。一つの梯子はエゴの様々な局面を殺すためのものであり、もう一つの梯子は一歩一歩アークエンジェル的ヒポスタシスを表現し始めるための梯子です。勿論、それは意識であるセルフ・エピグノシスの様々なレベルを意味しています。これは気づきの上昇のことですが、そうすることによって今や現在のパーソナリティーがコントロールすることができるパワーと能力が与えられ、現在のパーソナリティーはそれらのパワーと能力を同胞の人間たちのために役立てます。それは現在のパーソナリティーが無知という墓のなか、地面にフォーカスしてサミュエルに同調している時のパワーと能力ではありません。しかし、パワーと能力を得るためにテクニカルな手段を使っている人々は実際にそれを行っているのです。確かに、魔術によって、テクニカルな手段によってパワーと能力を得ることは可能ですが、そのような人々は不幸にもバランスの反対側に置かれることになります。

古代ギリシャ人を例に取るなら、彼らはこの側だけを使用してより良いセルフを表現しようとしてきました。そして、残念なことにそれが現代の大部分の方法、仕方、真剣なアプローチのやり方になっています。確かに、それはある程度役立ちます。しかし、もし私たちが真に啓発を目指しているならこちらの方法（＊エレブナのやり方）に従い、同時にバランスの取れたパーソナリティーを表現すべきです。バランスの取れたパーソナリティーを表現するためには、ノエティカル体、サイキカル体、肉体に同等にワークする必要があります。これは非常に重要なことです。

もしあなたがテクニックを使用し、エゴを殺そうとするなら、自動的にあなたは潜在意識に同調することになり、勿論ある程度の知識が表面にもたらされ、それらの知識はパワーと能力を現す助けとなります。それらはエレメンタルを築いているのです。しかし、それでもその人は無知のなかにおり、地面、土のエレメンタルにフォーカスしているのです。それらのエレメンタルは人類が計り知れないほどの長い年月を通じて築いたエレメンタルですが、それらは非常に低いバイブレーションです。確かに、それらのエレメンタルにフォーカスすることによって人間は多くのパワーを得ることができますが、それはおそらくその人自身からの直接のパワーではなく、いわゆる悪霊の様々な形態を通じたパワーです。それらは非常に低レベルのエレメンタル、悪霊です。それは神ではなく人間が創造したものです。

Page 5

質問：…それらはサミュエルのエレメンタルですか…？

Ｋ：ルシファーのもとにあるサミュエルは悪霊とみなされるべきではありません。彼らは創造界において特定の仕事をしています。彼らは原因・結果の法則を管轄し、人間に奉仕しています。彼らは人間を特定の方向に押し出すことはしません。彼らは人間の意志に奉仕しているのです。人間は自分自身で創造したものから影響されているのであって、それ以外のものが人間に影響を及ぼしているのではありません。

物質的なもの、地上的なもの、あなた自身のイメージなどの魅力にあなたを引き寄せるのはエレメンタルではありません。すでに作られているエレメンタルではなく、あなた自身で創造したものが、あなたをそれらへと引き寄せているのです。もしあなたがそれらのエレメンタルに同調するなら、それはあなた自身のエレメンタルを創造しているようなものです。つまり、あなたは同じレベルのバイブレーションで振動しているのです。過去には様々なタイプの方法があり、残念なことに今でも多くの人々がそれらの方法を実践しています。それらは魔術の部類に入り、特に黒魔術の部類です。様々な形態、様々なタイプがありますが、私たちは自分がフォーカスするものに関して非常に注意する必要があります。特に粗雑な物質界にいる間は。

人間に多くを提供することを約束している本がたくさんあり、それらの本ではテクニックにフォーカスするとは書いてありませんが、しかしいろいろな能力を提供すると約束しています。本を読んだだけでそのようなことが可能となることはあり得ません。一冊の本を読んだり、勉強するだけで能力が得られることはなく、現在のパーソナリティーに対する困難なワークの結果として得られるものです。確かに、もしあなたが特定のテクニックを実践すればあなたに何かを提供するある種のエレメンタルに同調することができるかもしれません。しかし、それらすべてのエレメンタルは見返りに何かを、様々な形態のエネルギーを得ることを期待しています。ですから、私たちは大いに注意するべきです。あなたはそれらのエレメンタルと闘うのではなく、それらのエネルギーを弱める必要があります。そうするための唯一の方法は彼らに愛を提供することであり、それ以外の方法はありません。彼らが愛に太刀打ちすることは不可能であり、勿論それを行う人間は彼を正しい道にもたらすためにたくさんの愛が必要となります。

質問：ロゴス的なものと聖霊的なもののバランスをもたらそうとする人間の試みの最初の段階、それは均衡あるいは調和が達成され、その人のアークエンジェル的ヒポスタシスを表現する段階であると言えるでしょうか？一度、調和を表現するようになると、どのような上昇が起きるのでしょうか？

Ｋ：いわゆる「超意識の意識のセルフ・エピグノシス」が達成されたときには、そのパーソナリティーにとってもはや二元性、善悪の意味は存在しません。そのパーソナリティーが表現するものは絶対愛です。しかし、もしその人が転生のサイクルにとどまり、日常の生活を送りながらそのレベルを表現するとしたら、そのパーソナリティーは他の人間にとって助けとなるかどうか、考えてください。そのパーソナリティーは同胞の人間に奉仕できるでしょうか？答えはノーです。なぜなら、まず第一に、その人は他の人々から受け入れてもらえません。彼らはその人を理解することができないでしょう。従って、そのレベル（＊「超意識の意識のセルフ・エピグノシス」が達成されるレベル）の現れに到達した人は潜在意識的に低いバイブレーションのなかに入り、二元性を使うレベルに入ります。しかし、他の人々と同じような仕方で二元性によって影響されることはありません。そのようにして、他の人々がその人を理解できるようにするのです。しかし、一度「超意識の意識のセルフ・エピグノシス」に到達すれば、その人にとって実際には二元性は存在しないのです。

質問：わかりました。私の質問のポイントは、その人がそのレベルに確立されたとき、その人の意識はそれ以後、どこに向けられるのでしょうか？

Page 6

Ｋ：そのポイントの彼方では、人間は「生」の意識に入ります。そこにおいては意識には異なったいろいろなレベルの表現はありません。生の意識、生の超意識というものはなく、そこでは生の意識はひとつです。わかりますか？ですから、私たちが意識、意識的意識のセルフ・エピグノシス、超意識的意識のセルフ・エピグノシスというとき、それは生の現象の世界についてのみであり、「生それ自体」の世界には当てはまりません。勿論、絶対存在の絶対意識があり、それもまた多様性としての生の意識です。なぜなら、絶対存在は絶対生だからです。神は絶対生(Absolute Life)です。

質問：…しかし様々な洗礼という意味では、火の洗礼があり、スピリットの洗礼があります。しかし、そこにおいては意識は完全に表現されているので、それらの洗礼は実際には意識とは関係ないのでしょうか？ですから、そこで生じるのはそれ以外の何かなのですか？

Ｋ：それはもはや意識の問題ではなく、意味の問題ではなく、制限の問題ではありません。それは一瞬のなかです。そのレベルから上、生の現象が生それ自体に入るとき、そこからテオーシス（＊神との再合一）までは一つの瞬間であり、あらゆる意味を超えています。そうです、そこから二番目の磔まで、四つのヘブンがあります。存在の諸世界、元型・イデア・原因の法則の諸世界、生それ自体の諸世界です。しかし、実際にそこに戻るとき、特に私たちが戻るとき、それは時間ではありません。人間の真の仕事は、地球上の全人類がそのレベルに到達するときにこの創造界で遂行されるでしょう。なぜなら、地球で最初にそのポジションに到達する人は、そこを渡る最後の人となるからです。もしあなたがこのポジションに到達し、もしあなたがそのポジションに到達する最初の人だとしたら、あなたは他の人々を背後に残してそこを渡ることはせず、他の人々、最後の人さえも助けるために待つことでしょう。それが私たちの本質です。

ですから、あらゆる人はこのポジションに到達すると、最後の人の前にいる人、つまり最初にそこに到達した人のゆえに、最後の人をそこで待つことでしょう。ですから、

**全員がそこにいるときが来ます。そして全員がそこに揃うとき、誰もがそこを渡らずに、全員がこの創造界において実存の諸世界にいる他の人間のために奉仕を始めるようになります。**

私たちの地球で他の太陽系、他の銀河の人々が奉仕しているように、他の太陽系に行き、他の銀河に行き奉仕するようになるでしょう。いわゆる地球外からの人間、現在のパーソナリティーのこのレベルの自己実現に到達した他の惑星の人間である彼らは、私たちにそして他の人々に奉仕を提供しています。

質問：彼らにはいかなるニーズ（＊欠けているもの、必要とするもの）もないのですか？

Ｋ：実際には、彼らにはいかなるニーズもありません。創造界に入ることを決意したとき、存在の諸世界（勿論それは創造界ですが）に入ることを決意したとき、彼らは魂のセルフ・エピグノシスとして、生それ自体として入るのです。それが実際に起こっていることです。

私たちは主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/SPA04/SPA/EN/PYR5/KE5.